

人參養榮湯

(太平惠民和劑局方)

組成	人參3、當歸4、芍薬2～4、地黄4、朮4、茯苓4、桂枝2.5、黄耆1.5～2.5、陳皮2～2.5、遠志1.5～2、五味子1～1.5、甘草1～1.5
主治	気血兩虚、心神不寧
効能	益気養血、寧心安神

プロフィール

人參養榮湯は、『和劑局方』痼冷門に、「淳祐新添方」として収録されている。淳祐は南宋の理宗の時代の元号で、1241-1252年である。一方、『三因極一病証方論(三因方)』(1174)には、「養榮湯」の名で、同じ内容の処方が記されている。それゆえ、一般には『和劑局方』が初出のように思われているが、最初にこの処方を世に出したのは『三因方』である。中国ではその後も重用され、日本でも江戸時代初期から馴染みの深い処方で、昭和の漢方復興期にも、重要処方の一つとして取り上げられている。なお、『聖濟總録』と『溫疫論』にも同名の処方があるが構成は異なる。

方解

人參養榮湯は、十全大補湯去川芎、加遠志、陳皮、五味子と考えることができる。人參・茯苓・白朮・甘草は四君子湯で、黄耆を加えて気血生化の源である脾の働きを強めて気を補い、熟地黄・当歸・芍薬は四物湯から理気活血昇散の川芎を除いたもので(本方は昇散の必要はない)、諸臓腑の陰液と血を補う。遠志と五味子は安神作用と化痰作用を併せ持ち、痰飲の停滯を治す。また遠志はその安神作用によって不安感・健忘などの精神症状を改善する。陳皮は理気することによって補液薬が脾胃に停滯するのを防ぎ、桂枝は通陽し、冷えを改善する。

四診上の特徴

矢数はその著の中で、「毛髪脱落し、顔色光沢なく枯燥、心悸亢進、不眠、健忘症などを目標にして用いる。病後の衰弱・産後の衰弱・結核症の衰弱などに応用する」と述べている¹⁾。また、『漢方と漢薬』誌に以下のようにまとめている²⁾。

- ① 肺結核、津液涸れて、皮膚枯燥し発熱著しからず、自汗盗汗なく腹力甚しく虚弱ならざるものによし。
- ② 肋膜炎、腹膜炎の慢性のものにて皮膚枯燥し、便少々硬きものによし。下利するものは注意を要す。
- ③ 遺精、津液枯燥して本方証を呈するものには竜骨を加える。
- ④ 産後の衰弱、産後の肥立ち悪しきものによし。
- ⑤ 腫瘍の壊症、悪液質の傾向あるものに用ゆ。
- ⑥ 病後衰弱、諸熱性病後衰弱甚しきものによし。即ち大熱解して後毛髪枯れ、健忘などあるものに良し。

使用上の注意

人參養榮湯には、糖尿病患者の血糖管理で使用するマーカーである1,5-AGを含有しているので、服用中に1,5-AGが偽高値を呈することがある。その他、薬疹の報告がある。

臨床応用

人參養榮湯は、慢性消耗性疾患で衰弱が進行したものに広く応用される。以下の如くである。

① 悪性腫瘍

各種悪性腫瘍の治療において、化学療法や放射線治療と併用した報告が多数みられる。副作用の全身倦怠感や食欲不振等の予防や症状軽減に用いられる。

玉舎らは、婦人科癌30例の術後、放射線療法または化学療法を受けたものを対象として人參養榮湯を投与した結果、自覚症状の改善度は改善以上40%、やや改善以上66%で、主治医による全般改善度は43%、やや改善以上70%であったと述べている。さらに加療中本方を併用することで白血球減少が有意に抑制され、加療後使用すると白血球数の改善傾向が認められたという³⁾。大原らはテガフルの投与を受けている192例を対象に、テガフル単独群、漢方薬併用群に

分け検討した。有用度の判定で有用以上は、人參養榮湯群48.2%、単独群18.4%と有意差が認められた。自覚症状では、人參養榮湯群は悪心・嘔吐、便通不整、意欲の亢進、疲労倦怠感に効果がみられたと述べている⁴⁾。

② 血液疾患

人參養榮湯は、骨髓異形性症候群(MDS)の一部を含めた貧血や血小板減少性紫斑病などに応用されている。

宮崎らの多施設共同研究において、120例の成人の再生不良性貧血(AA)に対し人參養榮湯を用いた報告では、やや有効以上が投与8週で12.3%、16週で20.0%であった。さらに、重症度別では重症例や軽症例より中等症例で著明な造血効果がみられた。また著効例では3血球系全てにおいて増加を認めたと述べている⁵⁾。さらにAAとMDSの不応性貧血に対して人參養榮湯を用い、赤血球系と血小板系に改善をみた報告もある⁶⁾。

安東は、副作用で鉄剤が内服できない貧血に対する人參養榮湯の効果の研究を⁷⁾、また柳堀らは子宮筋腫の過多月経による貧血に対する効果の研究をそれぞれ報告している⁸⁾。

熊本は、人工関節術施行時の自己血貯血において人參養榮湯事前内服群と非内服群を比較した結果、自己血貯血時にエリスロポエチン(EPO)製剤、経口鉄剤に人參養榮湯を併用することにより貯血後の貧血傾向を和らげる可能性が示唆されたと報告している⁹⁾。この他、血小板減少性紫斑病にも使用され、血液透析の患者の腎性貧血ではEPO低反応性貧血に用いられる¹⁰⁾。

③ 肝疾患

丁らは、C型肝炎抗体陽性患者38例に対し人參養榮湯を投与した結果、9例でHCV抗体の陰転化やウイルスの陰転化を、8例でウイルス量の低下もしくはトランスアミラーゼの改善を認めたと報告している¹¹⁾。その他

の検討で、食欲不振や全身倦怠感などの自覚症状は高頻度で改善し、血小板数と γ -GTP、ヘパプラスチンテストが有意に改善したとの報告もある^{12), 13)}。

④ 末梢循環障害・冷え症

人參養榮湯は、冷え症やレイノー現象に対しても有効である。原因不明のレイノー現象のみならず、全身性強皮症(SSc)や混合性結合組織病(MCTD)などにも使用され、単にレイノー現象が軽快するのみならず、冷えなどの自覚症状や血流の改善なども観察されている。

田村ら、田中ら、矢野ら、田辺ら、矢久保らの興味深い報告がある^{14), 15), 16), 17), 18)}。

⑤ その他

大川らは、口腔乾燥感を訴えた13例に対し人參養榮湯を4週間投与したところ、著効1例、有効8例、やや有効2例、不変2例、悪化無しであったと述べている¹⁹⁾。またドライアイに用いた福田らの報告によると、点眼薬に人參養榮湯を併用することにより、自覚症状のみならず一部検査所見も改善したと述べている²⁰⁾。西川らは、人參養榮湯は高脂血症に対し臨床的有用性があると述べ²¹⁾、吉川らは、前立腺肥大症術後患者の体力回復に対する本方の有用性を検討している²²⁾。五味淵らは、男性不妊症への効果を検討し、精子濃度、運動率ともに改善をみたと述べている²³⁾。赤澤は、人參養榮湯により、糖尿病患者の冷感・しびれ感・倦怠感など自覚症状の改善をみたと報告している²⁴⁾。井口らは、多発性硬化症に対して人參養榮湯を投与した結果、CD8系T細胞の増加がみられ再発予防効果の可能性が示唆されたと述べている²⁵⁾。山本は、アルツハイマー型痴呆に人參養榮湯を投与した結果として、本方が何らかの役割を果たすことを示唆している²⁶⁾。小野らは、人參養榮湯が非侵襲的陽圧換気(NPPV)からの離脱に寄与した一例を報告している²⁷⁾。熊本は、整形外科領域で、人參養榮湯の術後感染に及ぼす影響について報告している²⁸⁾。

<引用文献>

- 1) 矢数道明 臨床応用漢方処方解説 p682 創元社 大阪 1981.
- 2) 矢数道明 後世要方解説 漢方と漢薬 6(3): p292-311, 1939.
- 3) 玉倉輝彦ほか 人參養榮湯投与による婦人科術後患者で抗癌剤投与中または放射線療法中の自覚症状および血液所見に及ぼす影響 新薬と臨床 44(5): p889-894, 1995.
- 4) 大原毅ほか 補中益気湯、人參養榮湯のテガフルとの併用療法に関する有用性の検討 薬理と治療 21(11): p4423-4434, 1993.
- 5) 宮崎保ほか 再生不良性貧血に対する人參養榮湯(EK-108)の臨床的有用性 臨床医薬 10(11): p2591-2603, 1994.
- 6) 名越温古ほか 難治性貧血に対する人參養榮湯の効果 日東医誌 46(2): p269-277, 1995.
- 7) 安東規雄 産婦人科領域における貧血に対する人參養榮湯の単独使用による造血効果について 日東医誌 50(3): p461-470, 1999.
- 8) 柳堀厚ほか 鉄欠乏性貧血に対する人參養榮湯の効果 臨床と研究 72(10): p2605-2608, 1995.
- 9) 熊本昇二 人參養榮湯の自己血貯血時における貧血予防効果 漢方と最新治療 14(2): p167-172, 2005.
- 10) 秋山真一郎ほか 腎性貧血に対する人參養榮湯の効果の検討 臨床血液 48(9): p1070, 2007.
- 11) 丁宗鐵ほか C型慢性肝炎に対する人參養榮湯の効果 和漢医薬学雑誌 11: p428-429, 1994.
- 12) 古屋実ほか C型慢性肝炎の全身倦怠感・食欲不振の改善に対する人參養榮湯の効果 JAMA(日本語版)別冊付録 17(2): p48-49, 1996.
- 13) 岩田郁ほか 肝硬変症に対する人參養榮湯の投与 -とくに血小板減少への効果について- 臨床と研究 72(3): p746-750, 1995.
- 14) 田村多繪子ほか 膠原病患者のレイノー現象に対するツムラ人參養榮湯エキスを顆粒の皮膚科における漢方治療の現況9: p40-48, 1997.
- 15) 田中政彦ほか 混合性結合組織病に対する人參養榮湯の有用性について 日東医誌 45(2): p351-357, 1994.
- 16) 矢野倫子ほか 強皮症患者の冷水負荷試験に対する人參養榮湯の影響 漢方と最新治療 10(3): p250-252, 2001.
- 17) 田辺恵美子 レイノー症状に対する人參養榮湯の効果 JAMA(日本語版)別冊付録 13(6): p49, 1992.
- 18) 矢久保修嗣ほか 人參養榮湯の「冷え」に対する改善作用の検討 漢方と最新治療 6(4): p385-390, 1997.
- 19) 大川周治ほか 口腔乾燥症に対する人參養榮湯の臨床効果 Prog. Med. 21(4): p1037-1039, 2001.
- 20) 福田恭江ほか ドライアイに対する人參養榮湯の効果 あたらしい眼科 12(9): p1427-1430, 1995.
- 21) 西川哲男ほか 高脂血症に対する人參養榮湯の臨床的有用性の検討 -単独投与による効果およびプロブコール併用投与による効果- 臨床医薬 11(1): p235-244, 1995.
- 22) 吉川裕康ほか 前立腺肥大症術後患者の体力回復に対する人參養榮湯の有用性 -虚実証判定スコアを用いた臨床効果の検討- 日東医誌 49(4): p617-622, 1999.
- 23) 五味淵秀人ほか 人參養榮湯の男性不妊症への効果 産科と婦人科 61(7): p1028-1030, 1994.
- 24) 赤澤好温 人參養榮湯による糖尿病患者の自覚症状の改善 現代東洋医学 16(1): p124-133, 1995.
- 25) 井口貴子ほか 多発性硬化症に対する人參養榮湯投与によるCD8系T細胞の増加と再発予防効果 漢方と免疫・アレルギー 14: p75-83, 2000.
- 26) 山本孝之 アルツハイマー型痴呆の漢方療法 現代医療学 11(1): p80-86, 1996.
- 27) 小野頭人ほか 人參養榮湯が非侵襲的陽圧換気(NPPV)からの離脱に寄与した一例 日東医誌 60(suppl.): p348, 2009.
- 28) 熊本昇二 人參養榮湯の術後感染に及ぼす影響 日東医誌 56(suppl.): p205, 2005.